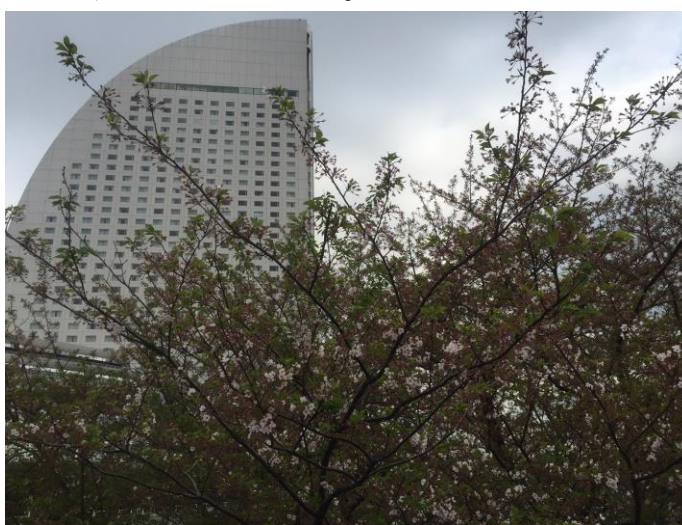


JRC2016 GALACTIC 発表報告

JCHO 北海道病院 山口隆義

皆様、こんにちは。JCHO（ジェイコー）北海道病院の山口です。ここ数年、JRCに参加しても、満開の桜にお目にかかっておりません。地球温暖化の影響でしょうか。しかしながら、最終日の朝、会場に向う途中で、わずかに咲いている木を発見。ちょっと得した気分、撮影部会が開催される会場へ向いました。

ところで、GALACTICという冊子をご存知でしょうか？これは、日本放射線技術学会から出版されている叢書で、CTの標準化を目的とした学術調査研究班によって作成された撮影ガイドラインです。2010の発刊が第1版



となりますが、改訂版として GALACTIC2015 が昨年リリースされました。今回は、よりエビデンスを重視し、医学放射線学会による画像診断ガイドラインとの連携や、診断参考レベル(DRL)の掲載も行い、より充実した内容となっています。前回に引き続き、私が担当させて頂いたのは「循環器領域」でした。

今回のワークショップでは、胸部、循環器、整形、CT-AEC、造影技術が取り上げられ、各ガイドラインの解説が行われました。改訂された全ての領域で一番難しかった部分は、AECを用いた撮影を前提とした画像 SD 値の記載だったと思います。これに関しては、皆様の苦勞が伺えるプレゼンテーションになっていました。循環器領域の心臓に関しては、適応疾患等の拡大もあり、それに合わせた撮影方法の選択も重要になってきています。そこで、弁や心機能を加えた冠動脈評価、心構造評価のシートを参考プロトコルとして加え

た事などを解説しました。

教育講演を担当された大阪大学の渡邊嘉之先生とも、少し、お話しさせて頂きましたが、地方の病院では、高性能 CT はあっても放射線科医師がいない場合も多く、診療放射線技師の知識と技術に大きく依存しています。そのような場面で、この GALACTIC はとても参考になると思います。経験の少ない領域でも、充分に対応可能です。是非、お手元に1冊いかがでしょうか？